

# ■虫を調べる ノミバエ科2種

この間から見えていたノミバエの顕微鏡写真を何枚か撮ったので、ここでまとめて載せておきます。ノミバエの幼虫は植物の腐ったものや動物の屍体などに発生します。また、家屋害虫としても、大量のノミバエが家の中に侵入したという報告もあります。体長がわずか2mmほどの小さいハエなのですが、何かとお騒がせのハエのようです。



このノミバエ、マンションの廊下でこの間から二種類も見ることができました。色が全然違いますが、頭の格好が似ているので、何となく同じ仲間かなと思ったら、ノミバエの仲間でした。体長は双方共わずか2mmです。

ノミバエについてはZiraniさんに詳しく教えていただき、だいぶ分かったきました。というか、難しいということが分かってきたという方が正しいかな。種類はどれだけいるかほとんどわからないような状態らしいのですが、とりあえず、検索表を使って属の検索を試してみました。

使った論文は次の二つです。

金子清俊ほか、「日本産ノミバエ科に関する研究第一報」、衛生動物 12, 238 (1961)  
田中和夫、「屋内害虫の同定法」(3)双翅目の主な屋内害虫」、屋内害虫 24, 67 (2003)

この中の検索表を使うと、上の二種ともトゲナシアシノミバエ亜科メガセリア属に到達しました。そこでまた、必要な部分だけを抜粋して載せます。

ノミバエ科の属、亜属への検索

- 1 中胸側板は両側に張り出すことなく、前胸気門は背面から見えない。横から見た場合は、前胸側板も気門も明瞭に認められる。また前胸気門は中胸側板上縁の延長線より下にある。 2
- 2 脛節には独立剛毛を有せず、縁に毳毛列を有するかまたはそれをも欠く。時に第3脚脛節の後背部にかなり良く発達した毳毛列を生ずることがある。触角上棘毛は斜下方に彎曲している。中胸側板は常に2個に区切られている。

トゲナシアシノミバエ亜科 (Metopininae) 3

- 3 第3脚脛節背面には1列の毳毛列があり、後背面には毳毛列にそってほとんど常に1列の毛列がある。その毛は種により細太多少がみられる。 Megaselia属 4
- 3' 第3脚脛節の背面は単に微毛があるのみでMegaseliaの如き毛列はない Woodiphora属
- 4 特徴は中胸側板上に毛を有する Aphiochaeta亜属
- 4' 特徴は中胸側板上に毛がない Megaselia亜属

ノミバエ科の属、亜属への検索

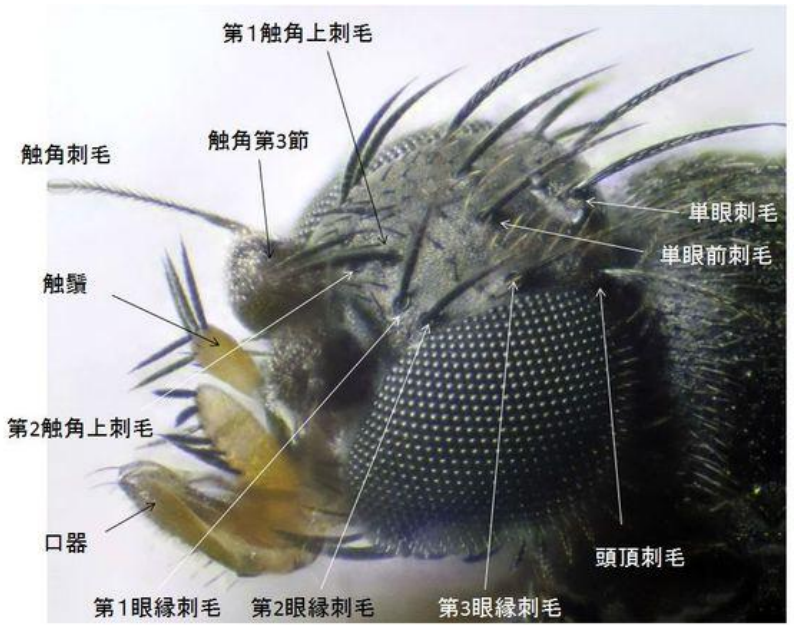
- 1b 脛節は基部2/3に独立した剛刺毛を欠く トゲナシアシノミバエ亜科 6
- 6b 後肢脛節背面に微刺毛列を持つ 7
- 7b ♀顔は突出することなく、頭盾も短く普通である。♂:トロフィタウマ属のみ(額は光沢があり正中溝を持つ;単眼域は隆起する;前縁脈のR2+3とR4+5の合流点間の距離は比較的長い;胸部はやや光沢がある)の特徴をすべて満たすことはない 8
- 8a 中胸上前側板に細毛、刺毛を欠く メガセリア属(メガセリア亜属)
- 8b 中胸上前側板に細毛があり、ときに刺毛も具える メガセリア属(アフィオカエタ亜属)

上が金子氏らの検索表、下が田中氏の検索表です。  
 この検索表の項目は基本的に同じ内容です。そこで、今日は検索表を順番に見ていかないで、その要点だけを確かめることにします。いつも言いますが、素人がやっていますのでそのつもりで見てくださいなね。  
 (追記:Ziamさんから、田中氏の検索表で「微刺毛列」と言うのが「毳毛列」で、この写真の「剛毛列」に一致しますとのコメントをいただきました。毳と



はカモシカ(氈鹿)羚羊を指す漢字で、カモシカの毛のように短く茂ったように見えることから付いた名前かと思われますとのことです。どうも有難うございました。  
 最初に上の黒い種からです。まず、ノミバエ科かどうかの科の検索はその変わった翅脈からだけで判断できますので、ここでは省略します。





これまでに載せた写真ばかりですが、各部の名称などを入れました。検索表にはいろいろな項目が載っていますが、トゲナシアシノミバエ亜科の特徴としては

- 脛節は基部に独立した剛刺毛を欠く
- 触角上棘毛は斜下方に彎曲している
- 中胸側板は常に二個に区切られている

この三つです。一番上の写真を見ても、脛節の基部に剛刺毛はありません。また、三番目の写真を見る

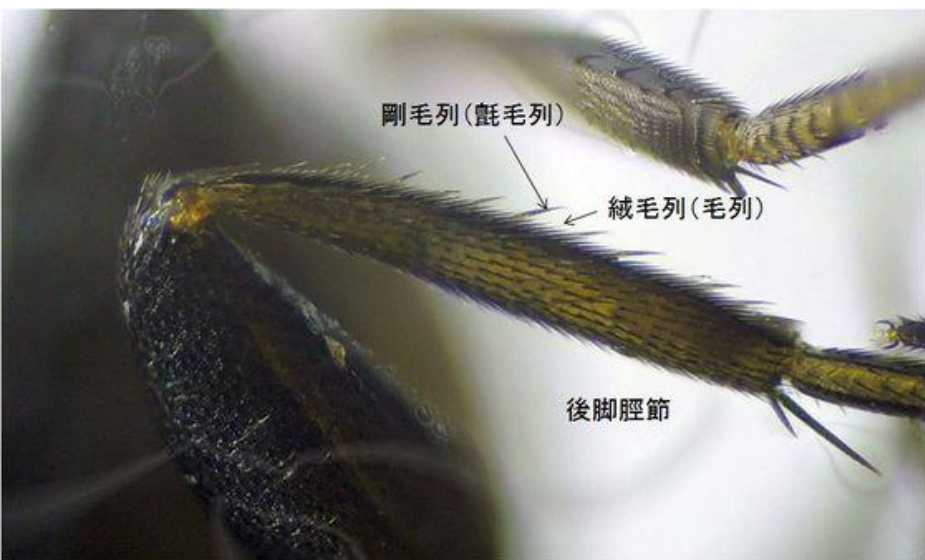
と、触角上刺毛は下を向いていることが分かります。さらに、次の写真で中胸側板を見てみます。



前の方から前脚、中脚の基節が下側に見えますが、その上にある側板は中脚では二分しています。というところでトゲナシアシノミバエ亜科らしいことが分かります。

メガセリア属へは、

○後脚脛節背面には一列の毳毛列があり、後背面には毳毛列にそってほとんど常に一列の毛列があるという特徴を見てみます。



後脚脛節の背面には剛毛列と絨毛列が並んでいます。この二種類の毛は同じ所に生えているわけではなく、

背面の両端に生えています。という事で、メガセリア属らしいことが分かりました。さらに、次の条件で亜属が分かります。

中胸上前側板に細毛、刺毛を欠く

メガセリア属

中胸上前側板に細毛があり、ときに刺毛も具える

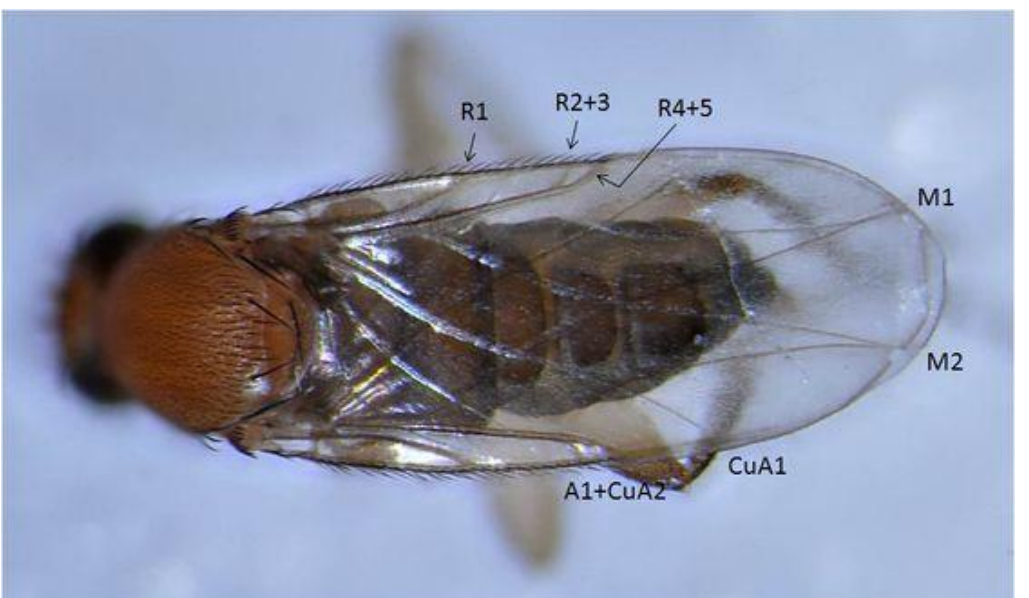
アフィオカエタ亜属

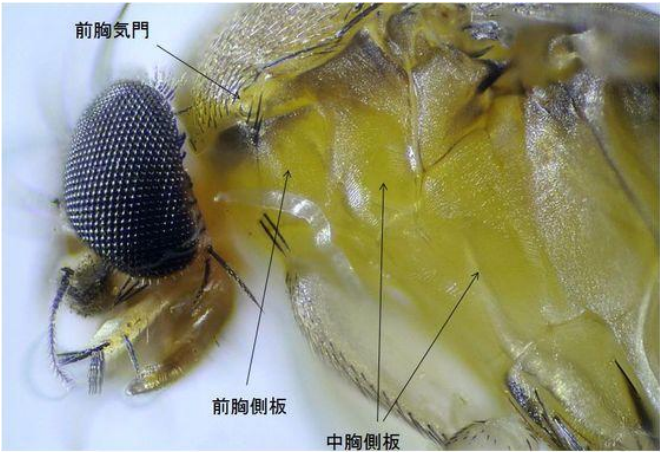
この写真の種をしてみると、中胸側板の上の方(中胸上前側板)に短い毛と少し長めの毛が生えていることが分かります。それで、アフィオカエタ亜属であることが推測されます。という事で、この種はトゲナシアシノミバエ亜科メガセリア属アフィオカエタ亜属らしいことが分かりました。これ以上はよく分からないのですが、次の論文

林利彦ほか、「関西地方におけるフイエノミバエ(新称)による冬期の家屋内大量侵入被害(双翅目、ノミバエ科)」、衛生動物 50, 157 (1999).

を見ると、家の中に大量侵入したフイエノミバエ *Megaselia meconicera* (Speiser, 1925) と細かな特徴がよく似ていました。最終的には交尾器を見ないといけないと思いますが・・・。

二種めについては次の写真を見てください。





回のノミバエですが、検索表に照らせば中胸上前側板の毛の生え方を見るに同定は間違いないと思います。」とびろコメントをいただきました。どうも有難うございました。とりあえず、ホッとしました)

ただ、ノミバエ科の全貌自体がまだよく分かっていないようで、亜科の名前についても論文で結構違ってました。例えば、Disney and Cumming (1992)は、*Aenigmatinae*、*Metopininae*、*Phorinae*、*Temioxeninae*、*Thaumatoxeninae*の五つの亜科が書かれていたのですが、Brown (1992)はこのうち三つしか一致した名前がありませんでした。ネットでも亜科が載っていないサイトがほとんどでした。いろいろと難しい仲間ですね。でも、属あるいは亜属に近づけただけでも親しみが湧いてきました。

(2015.1.29 記)

色は全く違いますが、基本的には最初の種とまったく同じような構造をしています。ただ、中胸側板の二分され方が少し異なっています。もっとも違うのは中胸側板の上側(中胸上前側板)に毛がないことです。従って、アフィオカエタ亜属ではなくて、メガセリア亜属の方に属するのではないかと思えます。こちらはここまででした。(追記:Ziramさんから、「今